

No.	資料	意見・質問	回答・対応	
1	環境教育推進プラン2025について	【意見】 令和3年度における成果指標の中で進捗度が「停滞」の項目の要因については、コロナ禍であることが大きく影響していると感じた。基準年値である平成26年度と比較すると、確かに「停滞」の状況になってしまう項目もあるが「施策1：学びの機会の提供 ②環境講座参加者数」や「施策4：場・拠点の整備・活用⑦エコポリスセンター事業へのボランティア等参加者数」などは、令和2年度よりも着実に良い結果になっているため、今後も継続して事業に励んでいただきたいと思った。	コロナ禍を経て、人々の価値観や暮らし方と共に、求められる環境教育の形も大きく変わってきていると考えています。コロナ前に設定した指標や数値との間にズレが生じていくことも考えられるため、今後は、明確な根拠を基に指標・数値の再設定をすることも検討しつつ、引き続きプランの進行管理を行ってまいります。	
2		【意見】 プランに示された実施すべき計画はあるとしても、近年の気候変動への問題意識は少なからず区民にも醸成されていると考えており、そうした中で、打ち水キャンペーンの実施を個人のご家庭に切り替えていくという「停滞」に関する今後の方針はいささか疑問が残る。 「環境」とは、自然環境についてであるとするならば、今の状況と将来予想の中で、取り組まなければならないことは変化しており、学び続け、計画にも反映していかなければならないのではないかと考えた。		
3		【意見】 コロナの影響による活動の停滞によって大幅な目標値未到達という結果は残念だ。環境教育をどのように啓蒙し、実際の活動につなげていくか、そのあたりの根本的なやり方、仕組みを考えなければならぬと強く感じている。特に、人との接触が制限されている状況で、コロナ前の目標を今後どのように達成するかについて考えなければいけない。		
4		【意見】 教育機会の提供は、電子媒体か、紙媒体か。環境活動は、家庭内・個人で実施できるのか、集団で行うべきものなのか等、多岐に渡るがその中の何かを選別し集中して実施する等、ある程度の選択が必要に感じる。環境の範疇が広範囲であるため、あれもこれもではなく、板橋区らしい選択をすることで効果ある集中をしつつ、家庭内、個人で実施できるプログラムを提案できると広がりがもてると思う。板橋区に合った目標に向かえる教育プランを推進していけたら良いと思う。		区は、令和3年4月に「板橋区地球温暖化対策実行計画（区域施策編）2025」を策定し、将来像である「SDGsの彼方に、地域と創るゼロカーボンシティ板橋」を目指しています。また、環境教育の面では「板橋区保幼小中一貫環境教育カリキュラム」に基づいて行われており、発達段階（年代）ごとに目標を定め、保育園から中学校まで一貫したねらいをもって実施しています。 また、環境教育プログラムの中には、家庭内・個人で手軽に実施できるものも多くあるため、ホームページやSNS等を活用しながら広めていきたいと考えております。 今後も、区が今まで力を入れてきた政策・教育を軸に明確な目標を設定し、板橋区らしい環境教育推進プランを展開してまいります。
5		【意見】 環境教育プランの目的や意義は記載から読み取ることができるものの、「環境教育」自体が何かという定義や意義、目的の記載がなく、なぜ推進を図るのがあまい印象を受けた。初めて読む人が理解できるような内容となっているべきと考える。		情報を明瞭かつ簡潔に提供することは大変重要であると考えております。今後ご意見をいただきながら、区民の方にとって分かりやすく親しみをもてる文書として周知してまいります。
6		【質問】 成果指標の「知識・考え方の変化」について、「変化」とは、どのような状況「から」どのような状況「へ」どの「程度」の変化か。また変化である以上、どのような基準、状態変化としているのか。		この数値を得るために環境講座参加者に対して実施しているアンケートでは、「講座に参加して「環境」についての関心に変化はありましたか？」と尋ねています。関心が「①高まった」「②やや高まった」「③以前と同じ」「④低くなった」の4択の中からご回答いただき、全体に占める①と②の合計を実績値としています。したがって、変化前後の状況や変化の程度は受講者によって様々ですが、「以前よりも環境に対する関心が深まった」という点を基準にしております。
7		【意見】 コロナ禍以降、エコポリスセンターの環境活動連絡会もメール開催が多く、今年になってようやく対面で話し合えるようになった。 「環境活動」と言ってもあまりに広いので、まずはSDGsの個々の問題を取り上げて、身近で出来る事から考えればより関心が集まるのではないかと。 環境なんでも見本市について、令和2年度はコロナ禍のためweb配信のみとなったが、令和3年度からは同時に館内展示も出来るようになった。全国どこからでもアクセスできると同時に、館内展示を見に来る区民も多く、広く関心を与えられていると思う。 その他の講座についても、小学生向けのものも数多くあり、大人から子どもまで環境に対する意識を持つための貢献ができていると思われる。		コロナ禍により、令和2年度は多くの事業が中止となりましたが、その後は感染対策を徹底しながら「対面」と「非対面」を併用しながら事業を実施する体制を整えました。 デジタルコンテンツについては、オンラインでのイベントや講座等を充実させてきました。今後は講座を収録した動画の投稿等、動画を活用した情報発信に力を入れていきます。
8		【意見】 環境講座の開催についてのお知らせメールや、イベント情報などのメールマガジンの配信を検討してほしい。 講座やイベントはなるべくハイブリッド型（in personとon lineを合わせた参加）にして、より多くの人が参加できるようにすることを検討してほしい。 日程が合わなかった人たちのために、講座を後日online videoで見られるようにするなど、情報発信により力を入れてほしい。		今後も区民の方にとって身近でわかりやすい情報・学習機会を発信・提供してまいります。

No.	資料	意見・質問	回答・対応
9	専門部会 について	【意見】 環境教育実践研究部会の「GKG(グリーンカーテンゴーヤーズ)卒団式」の講座がとても良いと思った。都内から自然が少なくなっている中で、ゴーヤの熟れた実に触れたことや葉の表と裏の温度を測定することなどは現代の子どもたちにとって貴重な機会だと感じた。	環境教育実践研究部会では部会を構成する各担当委員に授業や講座の企画・実践を行っていただいています。今後の実践研究部会においては、企画の際には現代の子どもたちに最も必要な環境教育のテーマが何かを考慮し、内容検討の際には正しい概念をもって理解できる授業構成にさせていただくよう、各委員に周知していき、より上質なプログラム実践ができるように努めてまいります。
10		【意見】 環境教育実践研究部会の「GKG(グリーンカーテンゴーヤーズ)卒団式」の講座で、葉の表と裏の温度を測定しているが、涼しくなるのは「蒸散作用」によるものであり、誤った概念を植え付けてしまう懸念を覚えた。小学校1年生だから良いとは言えず、蒸散作用のことをきちんと理解させていただきたいと思った。 (早朝、ゴーヤの葉にビニール袋をかけておき、授業の時に見るとビニール袋の内側に水滴がつく。これを観察することで、蒸散作用の理解につながると思う。)	
11		【意見】 社会情勢上、今後はエネルギー問題に関する実践に力を入れてほしい。	
12		【質問】 どのような必要性から、教育委員会と環境政策課が部会を設置しているのか、またどのような成果を期待しているのか。(設置において成果指標がないと評価は難しいと感じた。)	
13		【質問】 専門部会の開催時期や日時や構成人数はどのように考えているか。また、まとめられた提言や課題はどのように事業に反映していくのか。	
		小中学校においては、講座形式でなく、それぞれの学習カリキュラム(授業)の中で環境教育を行う必要があるため、小中学校を取りまとめている教育委員会と連携して、専門部会を運営しております。また、「板橋区保幼小中一貫環境教育カリキュラム」に基づき、発達段階(年代)ごとに到達すべき目標を定めていますが、現状は具体的な成果指標を設置していないため、その必要性や相応しい内容等についてご意見を聞きながら検討してまいります。	
		専門部会の構成委員数は現在10名で、このうち部会長、副部会長(2名)、エコポリスセンター館長を除く6名の委員により実践を行っていただいております。委員の選任、小中学校の夏休み期間等の関係上、毎年秋季頃に実践を行うのが最も負担が少なく、現在のスケジュールや構成人数等については適切であると考えています。 また、まとめられた提言や課題は環境教育推進協議会で報告し、委員の皆さまよりご意見をいただきながら次期の実践に活かしております。	
14	協議会 について	【意見】 前年度も含めて収集された意見が、今後反映されるのかどうか、結果を共有していただきたい。	今までいただいたご意見等についてはすべてご参考にさせていただき、具体的なものは随時事業運営等に反映しております。今後も、協議会の中でいただいた意見がどのように反映されたか、分かりやすい形で説明していきたいと考えています。
15	環境教育 全般 について	【意見】 コロナ禍によってオンライン会議、メール会議等が盛んとなったが、区民との積極的な関係性と活動を進めるための、これまでとは異なる活動方法がこの推進会議から生まれることを期待する。対面、オンライン、オンデマンド、どれも一長一短であるため、教育効果として何が一番望まれているのか、効果的であるのか、そのあたりも考慮しながら今後の活動につなげられるといいと思う。	コロナ禍によって、人々の環境に対する考え方や活動の仕方が変化しており、これに伴って、区の環境教育の推進の仕方もアップデートする必要があると考えています。今後も、区民の方の「現在の声」をできる限り収集し、委員の皆さまからのご意見をいただきながら、最も効果的な形で教育の機会を提供していきたいと考えております。